

令和7年産



気仙沼・南三陸 稲作情報 第6号

令和7年7月22日発行

宮城県米づくり推進気仙沼地方本部・宮城県気仙沼農業改良普及センター

TEL 0226-25-8069 FAX 0226-22-1606

- 県内では6月以降気温の高い状態が続いています。三陸沿岸の**出穂期は平年より1日早い8月2日頃**となる見込みです。
- 出穂30日頃までは、「**飽水管理**」を行い、**土壌を湿った状態に保ちましょう**。「飽水管理」は、登熟期間が高温のとき、玄米の品質向上を図る技術としても有効です。
- **登熟期間に高温に遭遇すると、白未熟粒の発生が多くなります**。玄米の品質低下を避けるため、葉色が低下しているほ場では、**生育量と生育ステージに留意して、追肥を行いましょ**う。
- **斑点米カメムシ類の発生がやや早く、多発しています**。ほ場をよく観察し、**遅れないよう適期に防除を実施しましょ**う。

1 水稻生育調査ほの生育概況（7月18日調査）

- ・ひとめぼれの草丈は70.0 cmと、生育量の目安の66~69 cmを上回りました。茎数は553.9本/m²と、目安の450~500本/m²を上回りました。葉色値は31.1と、目安の35~37を下回っており、淡くなっています。
- ・幼穂長は71 mmで、**減数分裂期**に入りました。出穂期は8月2日頃と予想されます。

表1 水稻生育調査結果（7月18日調査）

品 種 地区名	年	田植日	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	茎数 (本/株)	葉色値 (GM)
ひとめぼれ	R7	5/14	70.0	553.9	28.7	31.1
気仙沼市本吉町	前年比・差	-6日	102%	102%	98%	103%

※生育調査ほの見直しにより、令和6年度から管内の調査ほは1か所となり、ほ場（担当農家）を変更しています。このため、前年比・差はありません。

2 生育ステージの予測

7月10日現在で、三陸沿岸の出穂期は**8月2日頃**と予想されます。ただし、今後の天候によっては生育ステージが変動することもあります。**ほ場で幼穂長を確認し、生育ステージを把握することが重要です。**

表2 生育ステージの予測（令和7年7月10日現在）

地帯区分	移植時期 (田植え盛期)	幼穂形成期	減数分裂期	出穂期
三陸沿岸	5/14	7/8	7/18	8/2

注) 幼穂形成期及び出穂期は、「宮城県水稻発育予測プログラム（暫定版）」（東北農研センター）を用いた予測日であり、減数分裂期は幼穂形成始期の10日後とした。

< 予測条件 >

① 日別平均気温：各アメダス地点のメッシュ農業気象データ（7月10日までは実況値、その後26日間は予報値を使用）、② 移植時期：各地帯区分の田植盛期、③ 移植時葉数：県生育調査ほ+作況試験ほ「ひとめぼれ」の平均2.9枚、④ 対象品種：「ひとめぼれ」。

表3 生育ステージと生育量の目安

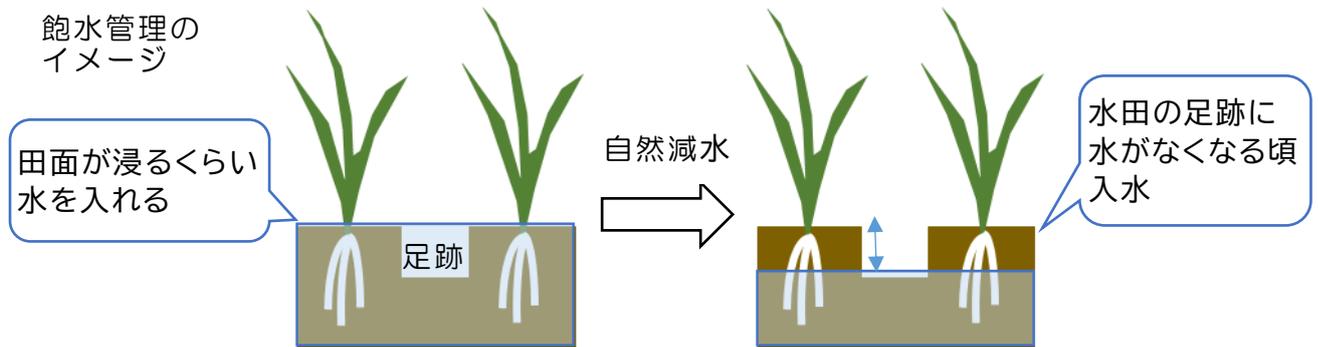
生育ステージ		出穂前日数	幼穂長 (mm)	葉耳間長 (cm)	草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	植付株数 (株/坪)	莖数 (本/株)	葉色値
幼穂形成始期		25日	1~2	-	56~59	470~530	50 60	31~35 26~29	38~40
減数分裂期	始期	15日	30~40	-10	66~69	450~500	50 60	30~33 25~28	35~37
	盛期	12日	80~100	±0					

注) 葉耳間長：止葉の葉耳とその下の葉の葉耳との間隔によって、出穂前日数を予想することができます。

3 今後の栽培管理

(1) 水管理

- 出穂前から出穂後30日頃までは、稲が最も水を必要とする時期です。**飽水管理を行い、土壌を湿った状態に保ちましょう。**
- 今年も高温が予想されています。飽水管理は、根の活力維持や胴割米の発生を抑制し、**玄米の品質向上を図る技術としても有効です。**



(2) 追肥

- 登熟期の光合成能力向上、出穂後の高温による白未熟粒の発生の軽減、玄米品質の向上のため、ほ場ごとに葉色や生育ステージ（幼穂長）を確認して**追肥を実施しましょう。**
(表3、4参照)

表4 各品種における追肥の時期と量の目安

品 種	窒素施用量 (成分量kg/10a)	
	幼穂形成期 (出穂25日~20日前)	減数分裂期 (出穂15~10日前)
ひとめぼれ	1	1
ササニシキ	—	1.0~1.5
みやこがねもち		1

(3) 病害虫防除

【斑点米カメムシ類】

県病害虫防除所から、斑点米カメムシ類についての注意報第3号（7月18日発行）が出されています。注意報によると、斑点米カメムシ類の発生時期は「やや早い」、発生量は「多」となっています。なお、クモヘリカメムシは県北沿岸部ですくい取り虫数が多くなっています。

〈水田の管理〉

- 水田畦畔の草刈りを、水稻の出穂前後に行うと水田内に斑点米カメムシ類を追い込むことになり、逆効果です。水稻が出穂する10日前までに実施しましょう。
- やむをえず草刈りを行う場合は、草刈り後直に水田への薬剤防除を実施しましょう。



写真 アカスジカスミカメ



写真 クモヘリカメムシ

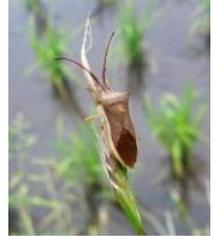


写真 ホソハリカメムシ

〈水田の薬剤防除〉

- 水田における薬剤防除は、穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本です。
- クモヘリカメムシの多発地域では穂揃期とその7日後の2回防除後に、さらに追加防除を実施することにより、斑点米被害のリスクを、より一層低減することができます。
- イヌホタルイが多発しているほ場では、1回目の薬剤散布を「出穂始～穂揃期」に早めることで、アカスジカスミカメの密度を低下させ被害を軽減できます。

【いもち病】

- 葉いもち感染好適日を判定するシステム「BLASTAM」によると、管内では6月24日、26日、27日に感染に好適な条件が出現しています。
- いもち病の予防剤の効果が低下してくる時期です。ほ場を見回り、病斑を確認した場合は茎葉処理剤で直ちに防除を実施しましょう。
※葉いもち感染好適条件の出現状況（BLASTAM（プラスタム））は、県病害虫防除所ホームページで確認できます。
- 穂いもちは、出穂直後が最も感染しやすくなります。穂いもち予防のため水面施用剤を施用する場合は、生育ステージを確認し、出穂10日程度前までに実施しましょう。



宮城県病害虫防除所
BLASTAM

【紋枯病】

- 県病害虫防除所の発生予報第6号（7月18日発行）によると、発生量は「平年並」となっています。
- 出穂期前からの発病は被害が大きくなります。また、前年に発生が多かったほ場では、多発のおそれがあります。
- 茎葉処理剤による防除又は処理適期は、穂ばらみ期から穂揃期です。要防除水準は、穂ばらみ期の発病株率が「ひとめぼれ」で18%となっていますので、要防除水準に達した場合は直に防除しましょう。
- 株元に薬剤がよく付着するように十分な薬量で散布してください。

【稲こうじ病】

- 前年に多発したほ場では注意が必要です。銅剤は予防効果が高く効果的なので、出穂20～10日前に防除を実施しましょう。

4 金のいぶき

(1) 調査ほでの生育状況

茎数は、生育量の目安（570～620本/㎡）を下回っています。葉色値は37.3で、前回調査（38.2）からやや低下しましたが、目安の葉色値（33～35）を上回っています。幼穂長は5.1mmで、幼穂形成期を迎えました。

表5 生育調査結果（7月18日調査）

品 種 地区名	年	田植日	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	茎数 (本/株)	葉色値 (GM)
金のいぶき 気仙沼市本吉町	R7 前年比・差	5/30 -2日	66.3 92%	524.9 91%	32.4 107%	37.3 108%

※令和4～5年の数値がないため平年値はありません。

※調査ほ場は、前年から場所を変更しています。

(2) 今後の栽培管理

表6 生育ステージと生育量の目安（金のいぶき）

生育ステージ	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	植付株数 (株/坪)	茎数 (本/株)	葉色値
幼穂形成始期	65～70	570～620	50 60	38～41 31～34	33～35
減数分裂期	80～85	490～540	50 60	32～36 27～30	30～32

- ・「金のいぶき」は出穂以降も葉色を維持する肥培管理を行いましょ。ただし、倒伏が懸念される場合は追肥を控えましょ。
- ・減数分裂期の葉色値30～32程度に維持するため、幼穂形成期（幼穂長1～2mm）に窒素成分で1kg/10a、減数分裂期（幼穂長30mm～120mm）に窒素成分で1kg/10a程度追肥ましょ。
- ・いもち病に弱いので、予防防除に努めるとともに、発生を確認したらすぐに茎葉処理剤で防除ましょ。

5 乾田直播栽培

(1) 調査ほでの生育状況

草丈、茎数、葉色値の、全ての項目で前年を上回っています。幼穂長は4.4mmで、幼穂形成期を迎えました。

表7 水稻生育調査結果（7月18日現在）

品 種 地区名	年	播種日	苗立率 (%)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色値 (GM)
ひとめぼれ 気仙沼市本吉町	R7 前年比・差	3/27 +2日	67.7% 118%	67.9 106%	497.3 145%	41.0 120%

※調査ほ場は、前年から場所を変更しています。

(2) 今後の栽培管理

前述の「3 今後の栽培管理」を参照。

6 気象の概況

降水量は5月までは、平年を上回って推移しましたが、6月から現在までは平年を大きく下回っています。気温は5月から平年を上回り続け、暑い日が続いています。日照時間は6月から平年を上回って推移しています。

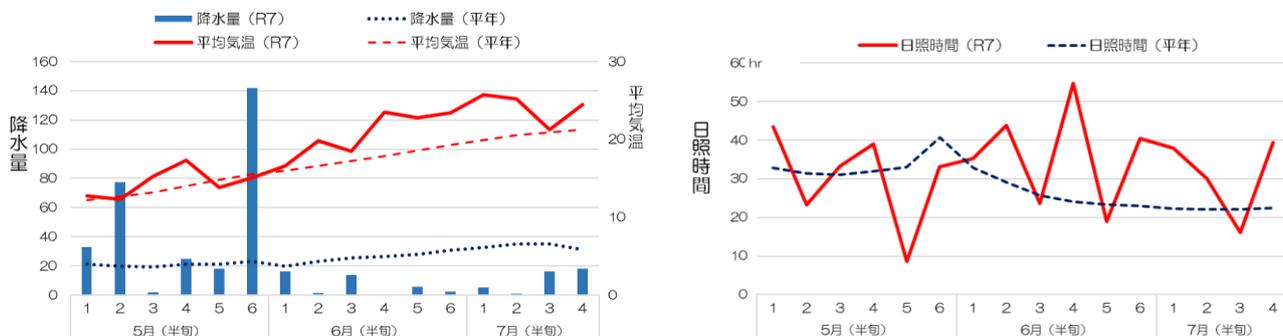


図1 気象経過図（気仙沼アメダス：6月1日～7月20日）

7 高温に関する早期天候情報（東北地方）

（令和7年7月17日 仙台管区气象台発表）

東北地方 7月23日頃から かなりの高温

東北地方の向こう2週間の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、かなり高い日が多い見込みです。

気温が1年を通して最も高い時期ですので、熱中症の危険性が高い状態が続きます。引き続き、屋外での活動等では飲料水や日陰を十分に確保するなど熱中症対策を行い、健康管理に注意してください。また、農作物や家畜の管理等に注意してください。

なお、1週間以内に高温が予測される場合には高温に関する気象情報を、翌日または当日に熱中症の危険性が極めて高い気象状況になることが予測される場合には熱中症警戒アラートを発表しますので、こちらにも留意してください。

農業作業中の熱中症を予防しましょう。

予防のポイント

- ・暑さを避ける
高温時の作業は極力避け、日陰や風通しのよい場所で作業
- ・こまめな休憩と水分補給
喉の渇きを感じる前に、こまめに水分・塩分を補給
- ・単独作業は避ける
複数名で作業を行う、時間を決めて連絡をとりあう
- ・熱中症対策アイテムの活用
帽子や吸湿速乾性の衣服の着用、空調服や送風機の活用



熱中症対策
農林水産省 HP

宮城県農薬危害防止運動実施中（6/1～8/31）

- ・農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ・土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
- ・住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ・農薬の保管管理を徹底しましょう
（参考）農薬は正しく使いましょう（宮城県農政部みやぎ米推進課HP）



農薬危害防止運動
リーフレット

次回の稲作情報の発行は、令和7年8月下旬を予定しています。